婆様は漸く事の重大さに気付いて、助けを求めたそうだが、その時には、どうする事もできず、ただ見ているだけだったと。

だんだんと水かさが増してきて、婆様は、骨箱とトラ猫を抱きしめて、屋根の上に上がって、合掌して、大声で助けを求めたげんじょ、その声もゴーゴーと唸りをあげる濁流に飲まれ、聞えなくなってしまったど。

そしてな、大きな波が来て、大事な爺様の骨箱が流され、あわてた婆様は、泳いで骨箱を掴もうとしたようだったが、そのまま、猫と一緒に流されて行ってしまったど。